



## 【過ちを祝福のきっかけに変える道】

聖書本文:ルカの福音書2章41-51節・暗唱聖句:イザヤ書9章6節

説教者:鄭南哲牧師  
(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！先週一週間クリスマスのシーズンの時は主の平安のうちに感謝を持って過ごせましたか。今日は2015年今年最後の送年感謝礼拝を捧げることになりました。

2015年もこれであつと言う間に終わろうとしています、愛するみなさんにとって今年一年はどんな1年でしたか。

新約聖書の中で3章10節に“義人はいない、一人もいない！”だと書かれています。そして、3章23節には、“すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず”だと書かれています。この御言葉の意味は全ての人が罪人だと言う意味であり、“罪人”だという言葉を使い換えて表現すると、“不完全な存在”だという意味でもあります。

ですから、人間は不完全な存在ですので、あやまちを犯すことはしかたありません。しかし、あやまちそのものではなく、そのあやまちを上手に処理できないことが本当の過ちではないかと思えます。もしあやまちを犯したとしても、うまく処理すれば、そのあやまちはさらにすばらしく変えられると思えます。

たとえば、イスラエルの民を出エジプトさせた指導者モーセも以前は人を殺す罪を犯したためしばらく逃亡(とうぼう)生活をせざるを得ませんでした。しかし、モーセは逃げて行ったミデヤンの荒野で羊飼いを40年間もしたので、お陰で彼は荒野について詳しくなりました。そういうわけで、神様はモーセがよく知っている荒野にイスラエルの民を導くようにと用いて下さいました。

ペテロもイエス様が捕まえられたその夜、イエス様を知らない3度も否認して、さらに呪う過ちを犯してしまいました。しかし、ペテロはこのあやまちのお陰で自分の弱さを良く知って、もっと神様をより頼んだゆえに初代教会の柱のような人として用いられました。

今日の本文は今年も1回礼拝についてメッセージしながら後半の箇所では学ばされましたが、もう一度本文の背景を説明させていただきます。イエス様が12歳になった年の過ぎ越しの祭りに起こった出来事です。ユダヤ人は出23:14、申命記16:16に神は“年に三度、わたしのために祭りを行わなければならない。”と言われた命令に従って過ぎ越しの祭り(種を入れないパンの祭り:ペサハ)、七週の祭り(五旬節:シャブオット)、仮庵(いお)の祭り(スコット:レビ記23:42-43)になると12歳以上の男性たちはすべてエルサレムの宮に上って、神様に礼拝をささげます。これは12歳の成人になったユダヤ人たちの守るべきしきたりでした。そういうわけですから、イエス様も12歳になった時、過ぎ越しの祭りを守るために親であるヨセフとマリアと一緒に宮(エルサレム聖殿)に上りました。

ところが、祭りが終わって、家に帰る途中で、しかも一日も過ぎてから、イエス様が見えないことに気付きました。ヨセフとマリアはイエスを失ってしまうあやまちを犯してしまったのです。しかし、ヨセフとマリアはこの過ちを通して、さらにもっと大きな事を得ることができました。我々も2015年一年を振り返れば我々もそれぞれいろんな失敗や過ちがあつたと思えます。

しかし、過ちを過ちで終わらせないで、ヨセフとマリアの過ちを通して、それをさらにすばらしい祝福のチャンスに変える機会となることを願います。

## 1. ヨセフとマリアはどんな過ちを犯しましたか？

## 1) イエスを失ってしまう過ちを犯しました。

過ぎ越しの祭りはイスラエル人にとって一番大きい祭りとして、ほとんどのイスラエル人がエルサレムに集まってくるので、とつてもさわがしかったと思えます。歴史家のヨセフスという人の記録によると、当時過ぎ越しの祭りには神様にささげるためにほふられた羊だけでも20万匹以上だったそうです。ですから、当時エルサレムに来た人たちは200万人より多くあつたはずで、こんな状況で迷子になることは当然だったかも知れません。我々も、今年一年を過ごしながらあまりにも複雑な事や忙しさにおわれ、何か大事な事を失われたものはないでしょうか。ある方は愛する親や家族がこの世を去って失い、ある方は職場を失い、ある方は頑張ってきたお金を失い、ある方は健康を失い、ある方は信仰を失ってしまい、ある方は名誉や情熱、愛を失ってしまったかも知れません。みなさんにとって失われたことは何でしょうか？

## 2) 一日の道のりを行ってもイエスを失われたことに気付かされない過ちを犯しました。

当時は交通もあまり発展しなかったため、山の泥棒や強盗に逢う危険があつたので、町の人々が一緒に行動しました。ですから、ヨセフとマリアは当然成人になったと思込んでたのか12歳のイエス様も人々に混じっているのだと考え込んだと思えます。それで、一日の道のりを行った後、ようやくイエス様がいないことに気付かされました。

ここで、一日の道のりを行った後という時間的に考えれば、少なくとも約10時間以上で、距離的には30-40Km以上なので、ある意味とつても親として無責任なことでしょう。なぜなら、一日の道のりを行ったと言うことは、途中でご飯の時間もあつたはずですし、イスラエルの荒野の道では水を飲まなければいけなかったはずなのに、これらのことを全部やりそこねたわけですから。ある意味でヨセフとマリアだけがイエスを失ってから気付かないだけではなく、こんにちの多くの人々も忙しい実生活の中で忙しさや何かに夢中になっていることのため、信仰を失ってもそれを気付かされず、祈りを失っても気付かされない、イエスを失っているのに、大分離れているのに気付かずに過ぎて来ることがおおくあるのではないのでしょうか。今日は今年の最後の主日として一年を決算する主日です。

愛するみなさんは失われたことは何であるか是非、振り替えて見てほしいです。

一年は52回の礼拝が捧げられますが、みなさんは何回くらい参加されたでしょうか？

水曜の祈り会も約50回ありました。日曜以外の早朝の祈り会は約300回ありましたが、みなさんは何回ほど参加されたでしょうか？もし、参加されなかったなら、それは失われたことでしょうか。もし、ヨセフとマリアも一日の道のりを行っている間、食事や水でもちゃんと与えられたのなら、失われずに、すぐ見つけたはずで、このように神様のことに無関心で、無責任なことは失われたことです。しかし、さらに大きい

問題は失われてもそれに気付かされてなかったことではないでしょうか。

### 3)失われたイエスを変な所で必死に探す過ちを犯しました。

本文の44-45節に“それから、親族や知人の中を捜し回ったが”と書かれています。失われたものをまず、どこで失ったのか考えて失われた場所で探すのが当然なことです。なのに、ヨセフとマリアはどこで、イエスを失ったのかすら気付かず、親族と知人の中で必死に捜し回っても当然見つかることはできなかったのです。

本文の46節に“三日の後に、イエスが宮でおられるのを見つけた”というのは1日距離だったのに、イエスを三日間も他所のところばかり捜し回ったという意味であり、その間どんなにさらに心配しながら捜したのでしょうか？

愛する信仰の家族のみなさん！同じように、多くの人々は道であり、真理であり、命であるイエス様を失ったまま、ほかのところ、つまり、お金、名誉、知識、権力、快樂などで、問題解決を、生きがいを探しているため真のイエス様に会う事が出来ないのです。

たとえば、アメリカの貧しい黒人たちが住んでいる町を“ハレム”と言います。知り合いのアメリカ人の仲間によると、ニューヨークのハレムに行くと、いつも建物の壁には落書きや町中のごみが散乱(さんらん)して汚いままあるそうです。そしたら町をきれいに整備しないと聞くと、それが以前何度もやってもまた同じになってしまうため、住んでいる人々がこのままは良くないことだと自ら悟らせるためにそのままわざと置かせるそうです。

そして、その友達はそのハレム町のある壁に書いてあった詩篇の変な23篇の内容を教えてくださいました。内容はこうです。

“お金は私の羊飼、私はとぼしい事はありません。

お金が私を緑の牧場に伏させ、憩いの水のほとりに伴われます。

お酒は私の羊飼、私はとぼしい事はありません。

お酒が私を緑の牧場に伏させ、憩いの水のほとりに伴われます。

セックスは私の羊飼、私はとぼしい事はありません。

セックスが私を緑の牧場に伏させ、憩いの水のほとりに伴われます。”

確かなのは、このようなことでは本当の満足と幸福を見いだすことは出来ません。なぜでしょうか。人間は神の形によって造られたので、神様に戻るまでは自分の真の満足を得ることは出来ないからです。それにもかかわらず、多くの人々は神様ではない、他の所で幸福を、根本的な問題解決を探している事は、イエスキリストの前でまたもう一つの過ちを追加していることにすぎないと思います。

## 2.イエスを失われた後、ヨセフとマリアはどうしましたか？

### 1) 必死に、続けて捜しました。

本文の45-46節で“見つからなかったので、イエスを捜しながら、エルサレムまで引き返した。そしてようやく三日の後に、イエスが宮で一おられるのを見つけた。”と記録しています。

ヨセフとマリアはイエスを失ったことに気付いて、エルサレムまで行くのに、一日の道のりを三日もかかりました。この意味はただ適当に捜したのではなく、隅々(すみずみ)まで力を尽くして必死に捜し続けたわけです。親として、子どもを失ってしまったと言うことははずかしいことであるのに、そんな関係なく、探し出すまで、時間的にも、経済的にも、体力的にもたくさんの負担を受けながらも捜し続けました。親である以上は子を探すことに自分たちの損などとは関係ないと思います。もっぱら子を探すのに切実な心で、必死だったヨセフとマリアだったでしょう。このようにクリスチャンはイエスキリストを本当に出会える時まで、自分の人生に受け入れるために時までは自分に負担になり、損になるときもあるかも知れませんが、それにしても心からイエスキリストを出会えるのに真心と根気よく捜し求め続ける姿勢がいるのではないのでしょうか。心の中心を見ておられる神様はすべてをご存知のはずなので、いい加減ではなく、本気で前進全力を尽してイエスキリストと出会える事を探し求める人に会わせ心から受け入れ信じる事ができるようにして下さると信じます。みなさんは今年イエスキリストを必死に慕い求めたのでしょうか。必死に主の御顔を仰ぎ見て来てたのでしょうか。イエスキリストの恵みの御座に熱心に出て来て祈り求めた一年でしたか。

### 2) 途中であきらめませんでした。

一日の道のりを行って気付いたヨセフとマリアは一日だけ探し回ったわけではなく、三日も探して、ようやく宮で見つけました。これは探し出すまであきらめなかったということです。神様はこのような人を喜んでおられます。

第一サムエル9:1-14によると、サウルは父からいなくなった雌(め)ろばを捜すようにと言われた時、適当にさがしてながらいけないと言わないで、三日間熱心に捜して、預言者サムエルにまで言って聞きました。大切なのは、神様はこのようにならず、切に探し出すという強い意志を持っているサウルをイスラエルの王として立たせました。

これをイエス様はマタイの福音書11章12節に“天の御国は激しく攻められています。そして、激しく攻める者たちがそれを奪い取っています。”と言われました。ですから、2015年を送りながら、やり残した事、間違ったところなどがあれば、かならず、それをやり直し、成し遂げると言う志を神の御前でもう一度立てますように祈ります。

## 3. イエスを見つけた結果どうになりましたか。

### 1) イエス様の真の姿を知る事が驚きました。

本文48節で“両親は彼を見て驚き”だと書かれています。ヨセフとマリアが聖殿でイエスを見つけた時、46-47節によると、イエスは宮で聖書を教えていた教師たちの真ん中すわって、話を聞いたり質問したりしておられ、イエスのお話を聞いていた人々はみな、イエスの智慧と答えに驚いている姿を見つけ、お二人ともその光景を見て驚きました。

実はヨセフとマリアは12年間もイエス様と一緒に暮らしていましたが、真のイエス様についてあんまり知らなかった事がここで分ります。

しかし、イエスを見失う過ちの事件を通してその結果イエス様の驚くべき素晴らしさを知る事が出来たのではないのでしょうか。

### \* 驚くべき御名イエスキリスト \*

イエスはどんなお方でしたか。旧約聖書イザヤ書9章6節には“ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たち

に与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。”イエス様は我々の**不思議な助言者の神(Wonderful Counselor)**です。イエスは神の智慧をもっておられ、人が知らない、人が分らない全ての問題に関して助言する事ができるおどろくべきお方です。今日の時代はどれだけ相談者を必要としているのでしょうか？我々には自分の心、自分の問題を夜通し聞いてくれる相談者、それだけではなく悩み問題を根本的に解決してくれる相談者が必要なのです。しかし、我々には叫ぶ広場がありません。さびしいです。追い詰められています。不安です。いくら人の相談者のドアをたたいても根本的な解決策がありません。つまり、現代相談心理学の一番の問題は相談の効果があまりないということです。相談学は発達しましたが、相談学の悩みはどんどん多くなってきています。もう一つのイエス様の名は相談者です。我々にいのちを与え、我々を造られた方が、同時に我々を治すこともできます。創造主なる神様が我々の苦しみ、なやみ、問題を知らないでしょうか。イエス・キリストの御名は不思議な真のカウンセラーであり、解決を与えて下さるお方である事を忘れないでください。そう信じている方々は今年一年間もどれほど不思議な助言者なるイエス様にみなさんの悩みを持って打ち上げたのでしょうか。それでどれほど不思議な助言者の助けを体験し、解決される経験をして来ているのでしょうか。頭で知るだけではなく、さらに来年には共におられるインマヌエルのイエス様を日々経験出来る驚く体験が増えて行きます様に切にお祈りします。

イエス様はこう言われました。“わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。”(ヨハネ14:16,18,ヘブル13:5,マタイ8:20”)

そして、イエスの御名は **全能なる神様(Mighty God)**の御名であります。赤ん坊で来られたイエスキリストでしたが、その方は真の神であり、“**MIGHTY, 全能なる神**”であります。この意味はすべての力を持っておられる神だと言う事です。私たちがこの世で生きるために知恵だけあってはいけません。守る、守られる力、限界を超える力も必要なのです。知識、物質、権威などを力だと思ふ方々は多いと思います。しかしこれらのすべての力は全部過ぎ去る影のようです。しかしイエス様は全能の神様(Mighty God)であると書かれています。私たちの出来ない問題を解決して下さるだけではなく、人が出来ない事にさえ力を私たちのすべての苦しい人生の環境でさえ変えて下さる力ある主なのです。それだけではなく罪と死の力をやぶり、私たちを暗闇から光に、ハデスつまり地獄から天国に、死から永遠のいのちに移して下さる全能の神がまさにイエスキリストなのです。**そのイエスキリストが私たちを呼び寄せています。**“すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます(マタイの福音書11:28)”みなさんは今年どれほど自分の無力と限界、疲れを感じた時に、全能なる神イエス様の力を頂きましたか。新しい2016年にはさらに日々上からの神の力によって前進するみなさんとなりますように祈ります。

**イエスキリストは‘永遠の父(Everlasting Father)’のような神です。**イエス・キリストを信じる者なら、イエス様が教えてくださったこの祈りをささげることができるでしょう。“天におられる我らの父よ。!”我々のあやまちも罪も赦して下さる父、強い腕で我々を守って下さる父、我々の問題を解決して下さる力ある父、愛の腕で我々を抱きしめ、慰めて下さる父！  
イエス様はこう言われます。**マタイの福音書6:26節**です。  
“空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。”そして、**マタイの福音書7章7-11節**ではこう言われます。“求めなさい。そうすれば与えられます… あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありましよう。”今年もみなさん、悲しかった時、大変な時にどれほど涙をぬぐい取り、慰めて下さる父なる神を経験して来ているのですか。永遠の父なる神であるイエスキリストなので、我々に救いも、永遠の命も与える事が出来るお方であります。

そして、**イエスキリストは‘平和の王(Prince of Peace)なる神’**です。愛するみなさん、2015年前、みどりごイエス様が誕生されたその夜、御使いたちが現れて歌いながら叫んだ内容は何でしたか。“**いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。**”(ルカ2:14)  
実際、この御言葉は慎重に理解しなければなりません。人々はこの箇所を短くして“天には栄光、地には平和が”と言います。しかし、本当に地に平和がありますか？イエス様がこの地に来られた以後、今日まで絶えず戦争と苦しみ、飢饉(ききん)、テロも消え去っていません。なのに“**地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように**”と言われました。イエス様が再び来られるまで、戦争と飢饉も、苦しみは続くでしょう。人の涙もうめきも続くでしょう。しかし、平和の王として来られたイエス・キリストを受け入れ神様の御心に従い、かなった人々の上には神の平和があると約束して下さっています。世はさわがしくても、私の心にはキリストの平安があります。

愛するみなさん、ここで忘れてはいけない事は、イエス・キリストを信じる人々が決して苦しみと試練に会わないので平安であるわけではありません。クリスチャンも悲劇に会うときもあります。聖書にもそう書かれています。  
“**わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。**”(ヨハネ16:33)  
しかし、イエス様はイエス様を信じ、御心に従う者らにこのような平安を約束されました。(ヨハネ14:27)  
“**わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。**”  
ピリピ人への手紙4:7節にも“**何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。**”

嵐の中でみなさんは今年もあちにこちに影響され、流されて、追われて来ていませんか。それとも嵐の中でも主の平安を経験して来たのでしょうか。是非新年を迎えながら、さらにどんな場合にも揺るがない主の平安うちに心も、体も、生活のいとなみが守られ、祝福されるよ

うに祈ります。

基督教歴史の中で祈りの人だと言うなら、当然ジョージ・ミュウラー(Muller, George)先生だと言えるでしょう。

しかし、ミュウラーは子どもごろから教会に通っていましたが、中学生になるごろ、イエス様を信じてても別に良いことも無さそうだし、日曜日に遊べなし、酒も飲めないし、タバコも出来ないし、色々制限されるのがいやで教会を離れ、放蕩な生活をしました。ところがある日、盗んでた時に捕まれ、刑務所に入れられてしまいます。刑務所の中で寒くて、お腹もいつもすいて苦しい日々を送っていた時、ある看守からミュウラーは一つの本をもらいます。その本は聖書でした。その聖書によってミュウラーは牢屋で生まれ変わります。以前子どもごろ、ただ聞いて知っていたイエス様ではなく、自ら聖書を読みながら自分の罪をも赦して下さる本当の救い主イエスキリストと出会ったのです。その時、ミュウラーは16才でした。その日以来、召される94才の時まで、イエス様に対する絶対信仰を持って常に祈られた結果、5万回以上の祈りの答えを、応答を神から頂く恵まれる人生を送る事が出来ました。

ヤコブの手紙1章6-7節“ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。そういう人は、主から何かをいただけないと思っはなりません。”

今受け入れて信じている救い主、全能なる神イエスキリストはいくらでもみなさんが驚くべき事を起こせるお方である事を忘れないで行きましょう。是非来年はさらなる全能なる主の力と御業の素晴らしさを経験する祝福の年となりますように

## 2)イエス様は聖殿の中で見つかる事が出来ました。

本文49節に“どうしてわたしをお捜しになったのですか。わたしが必ず自分の父の家にいることを、ご存じなかったのですか。”イエス様は“必ず自分の父の家”、つまり、当時は聖殿、主が天に上られてから、地上に出来た主の教会に必ずおられる神様であるということでしょう。もちろん、神なるイエスキリストは我々の心にも、どこにもおられ、制限されないお方であられます。ところが、聖書によると、どこにもおられる神様が、旧約の時は特定の聖幕、そして、聖殿に、その後、主の教会に臨在されておられるのを聖書はよく教えて下さっています。

今日の本文で大変残念だったのは、ヨセフとマリヤが他のところに迷わずに早速聖殿に来たなら、すぐイエス様を見つけることが出来たはずではないでしょうか。そしたら、余計な力、エネルギー、物質、時間などたくさん損になる事がなかったかも知れません。聖殿は神を礼拝し、臨在される場所だったので、すべての問題を解決される場所でした。ハンナは子供がずっと授からず、苦しい時に聖殿で神に祈り、サムエルが与えられたのではないのでしょうか(第一サムエル記)。ヒゼキヤ王は国家の危機に直面した時、聖殿に入って祈り、国が守られました(第二列王記19章)。

歴史的に聖殿に、そして主の教会に行き祈る事でその問題が解決出来なかった人はいませんでした。なぜでしたか。生きておられ、全能なる神がそこに臨んでおられるからです。

2015年みなさんは主の教会であるクリスチャンプレイズチャーチに入ってどれほど全能なる神に祈って見ましたか。どれほど主の教会に通いながら、問題解決を経験して来ましたか。迎える2016年には主の教会、神の聖殿の中で祈りながら、全ての問題解決と神の応答を経験する祝福の年となりますように切に祈ります。

## 3)イエスキリストを心に留めて置くべきお方として見つけました。

本文51節に“母はこれらのことをみな、心に留めておいた”と書かれています。

ヨセフとマリヤはイエスを見失う事件によってイエスが驚くべき素晴らしいお方であり、聖殿の中におられる方である事を分ったため、イエスが語られたすべて驚いた出来事やイエス様のお言葉を心に留めておいたのはとても当然な反応だったかも知れません。

ヨセフとマリヤは今まで12年間もイエスと共に暮らして来ましたが、イエスの御言葉を心に留めておくことはまったくなかったわけです。しかし、これからはイエス様の御言葉を心に留めておくことになりました。

その結果マリヤはガリラヤのカナで行ったある婚礼の家でぶどう酒がなくなって困っている時、イエス様に伝え、そして手伝いの人たちにも“あの方が言われることを、何でもしてあげて下さい。(ヨハネ2:5)”と言われました。その結果、イエス様がおっしゃった通り、水がめの水全てがぶどう酒に変わる奇蹟をみんなが経験することにもなりました。

ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！新年2016年にはさらにイエスキリストを心に受け入れ、常に主の御言葉を心に留めて行く時こそ、さらなる神の力と恵みを、神の御業と栄光を体験する事が出来ると信じます。

今日のメッセージを終わらせたいと思います。わざと過ちをおかす必要はないでしょう。しかし、過ちを犯してしまった時はイエスの御前に持って来れば、驚くべき神の恵みと祝福のチャンスに変える事が必ず出来る事を覚えて置きましょう。

問題は過ちそれ自体ではなく、過ちを自分勝手に処理しようと、正しく主の前で主の御心通り処理しないことが問題でした。

2015年にあった自分の全ての過ちは我々の永遠のカウンセラーであり、全能なる神であり、永遠に存在する父であり、平和を与えてくださる王であられる素晴らしい御名イエスキリストの御前に持って来て下ろし、素晴らしく解決して下さる事をさらに経験できます様に。

2016年にさらなる祝福を祈りつつ、期待しつつ迎える愛する全クリスチャンプレイズの神の子どもたちとなりますようにイエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！